※　未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた集計結果です

※　以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問 1～10）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。　①:あてはまる　②:ややあてはまる　③:あまりあてはまらない　④:あてはまらない

設問 1　シラバスに沿って授業を行えた。

①:29（83%）　②:4（11%）　③:2（6%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 2　学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:23（66%）　②:9（26%）　③:3（9%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 3　話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:22（63%）　②:11（31%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:2（6%）

設問 4　重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:20（57%）　②:13（37%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:2（6%）

設問 5　学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:21（60%）　②:12（34%）　③:1（3%）　④:0（0%）　未回答:1（3%）

設問 6　受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:23（66%）　②:12（34%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 7　受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した　等）

①:25（71%）　②:9（26%）　③:1（3%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 8　授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:17（49%）　②:14（40%）　③:3（9%）　④:1（3%）　未回答:0（0%）

設問 9　総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:21（60%）　②:14（40%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

設問 10　シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:21（60%）　②:14（40%）　③:0（0%）　④:0（0%）　未回答:0（0%）

B（問 11～15）：FD 活動についてお尋ねします。

設問 11　この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。**（複数回答可）**

①他教員の授業参観：　9（26%）

②学内外の FD 講演会等への参加：　24（69%）

③他大学の FD 活動の視察：　2（6%）

④その他：　8（23%）

設問 12　今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。**（複数回答可）**

①他教員の授業参観：　14（40%）

②学内外の FD 講演会等への参加：　21（60%）

③他大学の FD 活動の視察：　4（11%）

④その他：　8（23%）

設問 13　昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、　回答：10 クラス（順不同）

[1] 毎年同じ内容なので、少し変更するのもいいかなと考える。

[2] ″・担当回数が 1 回増えた分のコンテンツを増やし、データの読み取りを中心とした。（日本語の揺れ、やさしい日本語、国語嫌い）

・香西、野矢両氏のレポートに関する基礎的な考察をベースにしている。

・デジタル教科書に触れさせた。″

[3] より能動的な学習が展開できるように、アクティブ・ラーニングを十分に取り入れた。

[4] 教員が説明する時間を短くより端的にまとめ，学生が活動しながら学んだり考えたりする時間を増やしました。

[5] ・文献検索の方法を改善し、より分かりやすいものにした。

[6] 言語文化コースの学生に対するオムニバス授業であり、コース主任からの依頼に基づき話をしている。昨年は自分の進路選択について話したが、今年は誰も履修していないので新鮮だろうと考え中国語について話、好評だったようである。

[7] グループ体験実習において、昨年度までは実験室での心得、マナーなどは学生まかせにしていたが、今年度から初回に化学実験を行うにあたっての心得、使用する実験器具および装置の使用法を説明するようにした。

[8] レポートすべき事項についてより明確に説明した。

[9] 予習を課すことで、授業におけるグループ討議の充実を図った。

[10] 今回、はじめての試みで、英米の童謡マザーグースの調べ学習（2 名一組）とその成果の発表の活動をとり入れた。教師が教えるのではなく、学生に調べさせることで主体的な学習を促すことができたとおもう。

設問 14　自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：　11 クラス（順不同）

[1] 今年初めて取り扱う内容が多く、特に倫理教育については、授業内容に改善の余地が残されている。来年の担当者と連携し、改善を図る。

[2] 倫理の部分は今年度初めて講義内容に取り入れたので、例示したものの適切性（わかりやすさ）など来年度に向けて修正する必要があろうかと思う。

[3] １部、学科の他の講義（乗船実習）と重なつた。レポート等で対応したが、今後は調整をする必要があると思う。

[4] 授業外の発展学習の方法を十分に示さなかったので，もう少し具体的な課題を与えてもよかったかもしれない。

[5] 英語科教員で分担したため、15 回の内 3 回授業を受け持って、英語教員として或いはその前に人間としての心構えについても考えて貰おうと、英語で書かれた道徳倫理的内容のテキストを一緒に講読した。生き方に関して何らかの示唆を与える内容だったと思う。

[6] 学生に実際に発音させるなど聞くだけに終わらないように工夫した。

[7] オムニバスで 1 回分のみ担当した。1 回で学生の関心に沿った内容を講義するため、3 つの異なる内容の PPT を準備し、最初に簡単に 3 つの内容を紹介した後、アンケートを実施して、多数となったものについて講義した。講義した内容のものも含め、3 種類の PPT は後日印刷して、全員に配布するようにした。

[8] 実習時間を増やしたい.

[9] ″１）実習形式の授業においては、主担当教員の準備に要する時間や労力が大きすぎること。実習時における教育効果の測定方法が確定していないこと。フリーライダー問題などの課題がある。

２）今後は、新しい取り組みとして「ケースメソッド教授法」を活用し、反転授業やグループディスカッション、クラスディスカッションの教材を開発したいと考える。″

[10] 問１３に書いたことが評価できる点である。反省点は、もうすこし調べたり発表をまとめたりする時間を提供できると学生に親切だったと思われる。

[11] 評価できる点は、学生に文学の本質をわかってもらうための良い教材を選ぶことができたことである。また、ディスカッションにより、学生同士のコミュニケーション力を高めることができた。

設問 15　FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル：　なし

C（問 16～18）：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 16　授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい：　31（89%）　　②いいえ：3（9%）　　未回答：1（3%）

問 16 で「はい」の方は問 17、18 にお答えください。

設問 17　下記のどの点を重視しましたか？**（複数回答可）**

①聞いて理解する：　11（31%）

②読んで理解する：　9（26%）

③自分の考えをまとめて話す：　21（60%）

④自分の考えを文章にまとめる：　20（57%）

⑤討論する：　16（46%）

⑥皆の前でプレゼンテーションする：19（54%）

⑦その他：　3（9%）

設問 18　「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答：　11 クラス（順不同）

[1]「良いプレゼンテーション」に関するグループディスカッションをさせた。普段、寡黙な学生も討論に加わっていた。

[2] 普段は寡黙な学生も意見表明をしやすいように、少人数のグループディスカッションを多く取り入れた。

[3] ppt で、学生の行いたい研究を3分程度でプレゼンテーションさせた。

[4] 主にファシリテーションの技法を参考に、ほぐし方・問いの組み立て方に工夫を加えた。Sharing に関してはさらに問いとの連関を考慮すべきであった。

[5] 受講者全員で協働して演奏したり創作したりする活動を取り入れています。

[6] ・家庭科ではオムニバス方式で行っているが、各担当教員が討論やプレゼンテーションを取り入れている。

[7] グループでの課題探求および体験実習の成果発表会の開催

[8] レポート, プレゼンテーション資料の作成。実際に発表させる。

[9] 地域資源の情報収集、情報分析、情報整理、グループプレゼンテーションをパッケージとして、延岡市製造業、都城市食品・醸造業、日南市サービス業の３箇所のフィールドで実習を取り入れた実践教育の授業を行った。地域によっては担当教員によってやり方が若干異なるが、日南市では情報収集、情報分析、情報整理については、５人から１０人までのグループを結成し、リーダー、副リーダーなどの役割分担をきめ、学生主体でアクティブ・ラーニングを行った。

[10] ディスカッションのときに、全員が発言するようにうながしている。また、調べ学習の成果をみんなの前で発表することは、プレゼンテーション力の養成につながっている。

[11] グループ討論を取り入れた。教員（私）は、それらの討論に適宜介入し、議論を活性化させた。

D（問 19～22）：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 19　授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

①はい：　20（57%）　②いいえ：13（37%）　未回答：　2（6%）

問 19 で「はい」の方は問 20～22 にお答えください。

設問 20　その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

①１～５回：　17（49%）　②６～10 回：　1（3%）　③11～15 回：　2（6%）

未回答：　15（43%）

設問 21　「地域」のどのような分野を取り上げていますか？**（複数回答可）**

①歴史・文化：　6（17%）　②政治・経済・産業：　11（31%）　③自然環境・フィールド体験：　7（20%）

④その他：6（17%）

設問 22　「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：　7クラス

[1] 地域企業の紹介。

[2] 宮崎の中小企業の商品開発に関する紹介を学部講師にして頂いた。

[3] 今年度の熊本地震に関して、「やさしい日本語」と報道の言語の観点で議論を若干深められた。

[4] ・各自が関心のある自治体について文化、歴史などを調べてまとめプレゼンテーションを行った。

[5] 宮崎の観光について、他県との比較などをしながら紹介した。

[6] 宮崎市内の廃棄物処理施設の見学会を実施

[7] １）地域資源の情報収集、情報分析、情報整理、グループプレゼンテーションをパッケージとして、延岡市製造業、都城市食品・醸造業、日南市サービス業の３箇所のフィールドで実習を取り入れた実践教育の授業を行った。地域によっては担当教員によってやり方が若干異なるが、日南市では情報収集、情報分析、情報整理については、５人から１０人までのグループを結成し、リーダー、副リーダーなどの役割分担をきめ、学生主体でアクティブ・ラーニングを行った。

２）日南実習では、日南市全域をフィールドとして、全１年生９６名を１１班に分けて実践教育を行った。本授業のねらいは、地域住民と意見交換をおこなうことで、情報収集能力を深めるとともに、地域資源とは何かを探る。また地域により異なる住民の意見や現場の情報・課題を整理し、必要な情報をまとめる能力を身につける。また、学生に社会人としてのマナーを身につけさせ、社会の現実を知らせ 、進路、人生設計を考える支援を行うことである。

具体的にはサービス・販売を大きなテーマとし、さらに各班のテーマを設定し、それに基づいて文献調査や SWOT 分析などの事前調査を行った後、現場でヒアリング調査等の現地調査を行います。５日目の最終日はグループごとにパワーポイントを使って関係者の前で研究成果を発表した。